

報道資料提供

●この資料の取り扱いについては、文化庁・大阪府教育委員会・泉佐野市教育委員会との同時提供になりますのでご注意ください。	
報道解禁日時の取扱い	
ラジオ・テレビ・インターネット	平成25年6月21日文化審議会終了後 (17時メド)
紙面	平成25年6月22日 朝刊から

問い合わせ先
〒590-0451
大阪府泉南郡熊取町野田 1 丁目23番38号
熊取町教育委員会生涯学習推進課
文化振興グループ 立石則也・前川 淳
TEL:072-453-0600
FAX:072-453-0600

表 題	国指定史跡日根荘遺跡「土丸・雨山城跡」の追加指定にかかる文化審議会の文部科学大臣への答申について
要旨・経緯	<p>○現在、熊取町には中家住宅をはじめとする国の指定文化財（重要文化財）3件をはじめ、熊取町文化財保護条例（平成5年施行）に基づく町指定文化財が11件あります。</p> <p>○平成25年6月21日（金）に開催された国の文化審議会で、国史跡日根荘遺跡の16地点目の追加指定地「土丸・雨山城跡」について、文部科学大臣に答申が出されました。</p>
広報ポイント	<p>国指定史跡 「日根荘遺跡」</p> <p>※今回の追加指定地は、土丸・雨山城跡（つちまる・あめやまじょうあと）</p> <p>以下は今回の追加指定地分</p> <ol style="list-style-type: none"> 名 称 日根荘遺跡（ひねのしょういせき） 所在地 大阪府泉佐野市土丸971番2外66筆等（水路敷を含む） 大阪府泉南郡熊取町大字野田72番外4筆（里道敷きを含む） 面 積 泉佐野市 71,581.08㎡ 熊取町 85,784.80㎡ <p>概 要 日根荘域に立地し、南北朝から戦国時代にかけて日根荘と深く関わりのあった土丸・雨山城跡の追加指定。</p> <p style="text-align: right;">（詳細は別紙のとおり）</p>

つちまる あめやまじょうあと 土丸・雨山城跡

平成 21 年度より泉佐野市教育委員会と熊取町教育委員会が合同で土丸・雨山城跡の文化財調査を実施し、和泉国屈指の山城である南北朝期から戦国期（1300～1600 年頃）にかけての土丸・雨山城の全容が明らかとなった。

調査の結果、雨山と土丸山（城ノ山）※¹の 2 つの山頂には中世の城郭に関わる曲輪※²、武者隠し※³、堀切※⁴、井戸など当時の遺構が発見され、雨山城跡と土丸城跡は一体の城（＝一城別郭）であるという見解が示された。

詳細な築城年代は不明だが、当時の文書等の記録からおそらく南北朝の頃に築かれたものと考えられる。

両山の裾部西側には檜井川が蛇行して流れ、南面は峡谷となって、紀州と和泉を結ぶ粉河街道、河内へ抜ける水間道、大木道など主要街道の結節部に位置している。またこの 2 つの山頂からは極めて優れた眺望が確保できたようである。そういった戦略上、重要な立地にあったこの城では、日根荘の荘官であった日根氏をはじめ楠木正勝※⁵や細川頼元※⁶、山名義理※⁷、橋本正督※⁸など有名な武将がこの城に関わり、城主になって周辺の土地と住民を統治することを狙って城の争奪戦（合戦）が頻繁に繰り広げられた。

さらに戦国期の日根荘の領主であった九条政基が 1501 年から 1504 年までの 4 年間、領有する荘園の直接支配のために京都からやってきて、仮の住まいとして選んだ長福寺で記した滞在日記「政基公旅引付」でも、住民が戦乱から身を守るために山入りや山籠りをしたとの記述がある。

また、古来から雨山踊り、土丸のこおどり他雨乞い信仰・習俗が強く残るとともに、用水の水源としての機能を残しているのも特徴である。

以上のように日根荘の盛衰とともに機能し、終焉を迎えた山城であるが、地域の人々によって代々この山城は守り伝えられ、当時の政治的拠点として、現在まで当時の遺構を良好に残す中世の代表的な山城として非常に重要である。

（追加指定のポイント）

- ①南北朝時代から戦国時代にかけての城の構造が完成された姿で今も良好に残っている。
- ② 2 つの美しい山の頂きをみせる泉州随一の山容で、それが一つの城として機能していた特殊な城である。
- ③信仰の山としての機能を十分に持ち、動乱に生きた人々が山に逃げこもったというような、城郭とは異なった山の利用が当時の記録に残る。
- ④日根荘の時代に生きた人々によって維持され、当時の政治や日常に不可欠な拠点として切り開かれた山城の長い歴史を伺い知る、この 2 つの山全体が重要な遺構である。

※府下の国史跡中世山城の事例

【千早城跡】 【赤阪城跡】 【楠木城跡（上赤阪城跡）】（ともに千早赤阪村）

・ ・ 南北朝期～（昭和 9 年指定）

【烏帽子形城跡】（河内長野市）・ ・ 南北朝期～（平成 23 年度指定）

※1 城ノ山・・・雨山（標高 312m）と双こぶ山として並ぶ標高 287mの山。城を築いた山の総称としてこの名が残る。泉佐野市南部の土丸にあり、海岸部から約 10Km ほど南東部に入った和泉山脈が連なる山間部の前山として雨山とともに立地し美しい山容を誇る。

※2 曲輪・・・戦陣として山を削った平坦地。兵が駐屯するための重要な場所。

※3 武者隠し・・・敵の攻撃に備え、身を隠す土盛り。

※4 堀切・・・敵が尾根伝いに攻めてくるのを防ぐ堀。

※5 楠木正勝・・・南北朝時代の武将。楠木正成の子、正儀（まさのり）の子。南朝方として奮闘する。彼の詳細を伝える資料はないが弘和2（1382）年に土丸城に籠城し、山名義理と争うが大内義弘の援軍に敗れるなどの記録が残る。

※6 細川頼元・・・南北朝時代～室町時代の北朝方武将。細川家は摂津・土佐・讃岐・安芸・丹波の守護大名。頼元は応安 7（1374）年に摂津守護に就任。当時南朝方から帰順した楠木正儀の救援で河内へ下向したり、南朝方の支配下にあった和泉国の軍事主力であった橋本正督征討に向かって

いる。

※7 山名義理・・・南北朝時代の北朝方武将。紀伊守護。橋本正督が支配した土丸・雨山城を永和 5（1379）年に奪還。この頃は北朝足利方の支配下に収まっている。

※8 橋本正督・・・南北朝時代の武将。楠木一族。楠木正儀とともに北朝軍と戦う。正儀が北朝に投降したのちも和泉土丸城によって抗戦するが、永和 5（1379）年に攻められ、翌年 7 月 17 日敗死。

